

令和4年度 事務事業マネジメントシート

事務事業No.		17-	7
事業名	図書館経費	会計 一般	款 10
政策	6 人生を豊かにするために	項 5	目 4
施策	6-1 生涯学習の推進	課名	社会教育課
		係名	生涯学習係

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象 町民（図書館利用者）	目的 （対象がどのような状態になっているか）	図書を中心として町民が様々な学習のできる場を提供する。
事業内容	必要な資料（図書、雑誌、AV資料等）の収集、整理、保存を行うことを基軸として、閲覧サービス、貸出・予約サービス、リクエストサービス、他館との資料相互貸借を行うほか、レファレンスサービス（調べ物のお手伝い）、複写サービス等を行う。不用図書等については年1回「リサイクル会」を開催し有効活用を図っている。 また、子ども読書活動を推進するため毎月2回（第2・第4土曜日）ボランティア団体による「読み聞かせ会」を開催している。		

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度（目標）	
	1	図書館入館者数	75,034	76,643		人	↑	96,000
2	図書貸出冊数	184,790	170,094		冊	→	182,000	
3								
4								
5								
		令和3年度（決算）		令和4年度（決算）	令和5年度（予算）			
全体事業費（千円）A+B				30,288	29,326		33,557	
財源内訳	直接事業費A			11,142	10,840		14,873	
	うち一般財源			11,142	10,788		14,803	
人件費（千円）B				19,146	18,486		18,684	
内訳	一般職員（人・千円）		1.81	11946	1.71	11,286	1.74	11,484
	臨時職員（人・千円）		4.00	7200	4.00	7,200	4.00	7,200

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	B達成できなかった
		町関与の必要性	B町が担うとともに、町民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A対象者は適正である
					コストの削減	A削減の余地はない
総合評価	Ⅲ 要改善（少しでも事業内容に改善の余地があり取り組むべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①R4年度の改善計画	社会情勢の変化、利用者の多様なニーズを把握して、サービスの改善に努めていく必要がある。	③取組の課題	利用者ニーズの把握と利用者増加の取り組みの創出が課題。
②R4年度に実施した取り組み	特設コーナーを設置し、「アルツハイマー月刊」関連本の紹介をはじめ、ロシア・ウクライナ情勢に関連した図書資料の設置を行った。	④今後の改善計画	来館者数や貸出冊数の把握に加えて、問い合わせ表や貸し出し図書の傾向を調査し、求められる資料の把握を行い、利用者増加を図る。